

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール及び自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業①②」
- 2 ねらい これからボランティア活動を始めの方を対象にボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎的知識・技能を習得させる。
- 3 期 日 ①とかしきボランティアスクール
平成30年5月19日（土）～20日（日）1泊2日
②自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業
平成30年9月1日（土）日帰り
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 30名程度
- 6 参加人数 ①とかしきボランティアスクール 15名
高校生 7名・大学生 6名・社会人 2名（男性6名、女性9名）
②自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業 4名
- 7 参加者内訳 ①とかしきボランティアスクール 15名
高校生 7名・大学生 6名・社会人 2名（男性6名、女性9名）
②自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業 4名
大学生2名・社会人2名（男性2名、女性2名）
- 8 講師
- ・大城 敏(パドリングガイド漕店代表)
講義「ガイドダンス」講義・演習「対象者理解」
講義「自然体験活動の特質」講義「自然体験活動の指導」「認定試験」
 - ・豊田 勝義氏（非営利活動団体 Water Wise Project Company）
講義・演習「安全管理」
 - ・平野 貴也氏（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授）
講義「青少年教育」
 - ・三田井 裕 国立沖縄青少年交流の家 所長
講義「青少年教育施設の現状と運営」
 - ・竹内 弓人氏（法人ボランティア）
講義「ボランティア活動の意義」
 - ・眞喜志 和人（国立沖縄青少年交流の家
企画指導専門職 ボランティアコーディネーター
講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」

9 実施プログラム

5月19日	8:00	9:00	9:40	10:00	12:00	13:00	18:30	19:00	20:00	
	集合受付	移動 高速船	オープニング	講義① 「青少年教育」 共通	昼食	講義・演習② 「ボランティア活動の技術」 共通	野外炊飯	移動	夕食入浴	講義③ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 法人ボラ
5月20日	6:00	7:00	9:00	12:00	13:00	14:30	16:00	17:30		
	起床	朝のつどい 朝食	講義・演習④ 「安全管理」 共通	昼食	講義⑤ 「ボランティア活動の意義」 法人ボラ	講義⑥ 「青少年教育施設の現状と運営」 法人ボラ	エンディング・アンケート	移動 高速船		

自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成事業(延期日程)

9	8:00	9:00	9:20	10:30	12:00	13:00	16:00	17:30	18:30	19:30
月	集合 受付	オープ ニング	講義 ガイダンス	講義・演習⑨ 「対象者理解」	昼 食	講義⑧ 「自然体験活動の特質」	講義⑩ 「自然体験活 動の指導」	休 憩	認定 試験	エンディング アンケート
日										

10 事業の様子

とかしきボランティアスクール5月19日(土)～20日(日)



講義：青少年教育



演習：海洋研修



演習：海洋研修



演習：安全管理



演習：テント設営



講義：ボランティア活動の意義



講義：青少年教育施設の現状と運営



講義・演習：安全管理



講義：対象者理解



演習：自然体験活動の特質

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・「青少年教育」では少子化高齢化が進む中、子供たちを取り巻く環境の変化に対して交流を通し、青少年の体験活動の重要性を強く感じた。
- ・ボランティアによる自主企画があることを初めて知った。また平成30年度の活動計画で様々な立場や事情を抱えた人たちを対象とした事業計画があることも印象的だった。参加しながらいい経験を積んでいけたらと感じた。
- ・安全管理はその時間と空間を共有しているすべての人で造り上げていくものであること、更にそれを持続することによって成立すること、これらのことを常に念頭に置いて行動することがわかった。
- ・安全管理は本当に大切であり、事故が起こる原因が自分自身の固定観念にあること、無知なことが取り上げられていたので、その部分を克服して安全管理をパーフェクトにしていきたいと思った。安全管理は生活すべてのことに通じることだから、ここで学べてよかった。
- ・ボランティア活動の全体像がイメージできた。先輩ボランティアが実践されているワンポイントアドバイスやスタッフのための安全管理チェックリストの内容が参考になった。

12 担当者所見

（1）成果

- ・「青少年教育」、「青少年教育の現状と運営」の講義を実施したことで、現代の社会の情勢の中、青少年教育の重要性への理解を深めることができた。
- ・「ボランティアの活動の技術」の演習では「ボランティアとしての視点を持つこと」を参加者に意識し、取り組むことで参加者の体験活動へのモチベーションや声かけの方法を考える参加者がいた
- ・「青少年教育施設のボランティア活動」「ボランティア活動の意義」の講義を実施したことで、参加者がボランティア活動の意義や大切さ等を改めて理解したと考えられる。
- ・「安全管理」の演習の中で体験活動の場面であらゆる情報を分析し、危険を予知することが大事であることなど、ボランティアとしての安全面で気をつけて活動の補助することに理解を深めていた。
- ・NEAL リーダー養成事業では、自然体験活動を指導する立場としての技術や指導を学んだことにより今後は、体験活動プログラムの実施方法や手段等を工夫してプログラムを実施したい等の意見があったことから、体験活動指導者として心構えができたと考えられる。

（2）課題

- ・参加者が定数に満たなかったため、次回は広報の方法や開催時期について検討し、各大学、高校、行政機関に発信していく必要がある。